

## 水に感謝

聖園女学院中学校

一年 大庭 梨瑚

「うちの田んぼに野生のカモが来ているよ、見に行こう。」と母は私と弟を田んぼに連れて行ってくれた。田植えが終わって少し成長した稲の間を母ガモと子ガモたちが元気いっぱい泳いでいた。田んぼにはオタマジャクシやアカハライモリ、ホウネンエビなどたくさん生き物がいる。カモにとって、稲で隠れることができ、食料もある田んぼは暮らしやすい場所なのかもしれない。私は春になると、田んぼからオタマジャクシをすくってきてカエルになるまで観察することが好きだ。足と手ははえて、きれいな黄緑色のアマガエルになるととてもかわい。カエルになったら、すくってきた田んぼに戻すことにしている。アマガエルは、夏になると田んぼから畑に移動してくるので、家の玄関やベランダにいるアマガ

エルを見ると、遊びに来てくれたのかと嬉しい気持ちになる。

私の家では、家族や親せきが食べる分のお米を作っている。祖父と仕事が休みの日に父が主に管理をしていて、田植えや稲刈りはみんなで行う年中行事のようなものだ。稲を育てるには、水がとても重要だ。稲は田んぼに入れる水の量を調節しながら秋まで育てられる。田んぼに入る水は用水路から来る。用水路は水の道路のようだ。木の枝のように次々と分かれながら、たくさん田んぼにつながっている。私の住む地域には田んぼがたくさんある。この田んぼに注ぐ水は深良用水だ。深良用水は、干ばつに苦しむ農民のために、芦ノ湖の水を深良村に流すため、一六六六年から約四年のさい月をかけて深良側と芦ノ湖側からほぼ同時に掘り進められたと考えられているトンネルである。深良地区郷土資料館には、工事で使われたノミやあんどんが展示保管されている。石を割ったり、運び出す作業を人力で行っていたのだからとても苦労したと思う。数百年前の人たちの努力や苦労のおかげで、いまの便利な生活があることは忘れてはいけないし、日々感謝しなければならぬと思う。そして、こ

のトンネルは現在も田植えの前や稲の収穫期に点検され整備管理し大切にされている。

深良用水について学ぶまでは、私の住む地域を流れる水が芦ノ湖からきていることを知らなかった。神奈川県にある芦ノ湖の水が静岡県に流れてきて、農業や産業、生活用水など人々の暮らしを豊かにしている。隣同士のつながりはとても大切だと思った。

水は有限である。便利な生活をする事で水が無駄に使われたり、水質が悪化したりしている。最近では、節水トイレやすすぎ一回の洗剤など日常生活において水を節約する考え方が広がってきている。さらに、水質汚染については、日本の場合その主な原因は、生活排水が占めていると言われている。調理の際の油は拭いてから洗ったり、適量のシャンプーを使ったり、毎日の積み重ねが生活排水の水質改善に重要だと思う。

雨や雪となり地上に降り注いだ水は、やがて川となり海に注ぐ。だれのものでもない水を守るために、一人一人が水に感謝し、大切にしていかなければならないと思う。